

みんなで育てよう！

# たがじょうの子どもたち

## 学校支援地域本部事業

今こそ、学校・家庭・地域がひとつにつながる時！

できる人が  
できるときに  
できることを

地域全体で  
子どもたちを  
見守り育てましょう

あなたの知識や経験を  
生かしてみませんか？

みんなが主役で  
学校が舞台

多賀城市教育委員会事務局 生涯学習課

〒985-8531 多賀城市中央二丁目1-1 Tel.022-368-1141 (内線542)

# 学校支援地域本部事業とは・・・

子どもへの教育は、学校だけで行われるものではありません。子どもたちの確かな学力、豊かな人間性、健康・体力「知・徳・体」のバランスがとれた「生きる力」を育むためには、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互に連携・協力しつつ、地域ぐるみで取り組んでいくことが大切とされています。

現在、多賀城市では、地域の教育力を学校や子どもたちの学びに生かし、つながりを深めて誰もが笑顔で暮らせるまちづくりを目指す「学校支援地域本部事業」が展開されています。

① 学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることが目的です。



② 地域のボランティアが学校を支援する、これまでの取組をさらに発展させて組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングして、より効果的な学校支援を行うものです。

③ 地域コーディネーターが、学校とボランティア及びボランティア間の連絡調整をします。

## ～期待される効果～



### ①子どもたちの教育をよりよいものに

- ・地域のいろいろな大人が学校の教育活動に関わることで、多様な体験、経験の機会が増えたり、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながったりします。
- ・多くの大人が子どもたちを見守ることで、よりきめ細やかな教育ができます。
- ・地域住民の協力を得ることで、教員が教育活動により一層力を注ぐことができます。

### ②生涯学習社会を実現します

- ・自らの経験や知識を、未来を担う子どもたちの教育に生かすことで、地域住民の自己実現や生きがいづくりにもつながります。

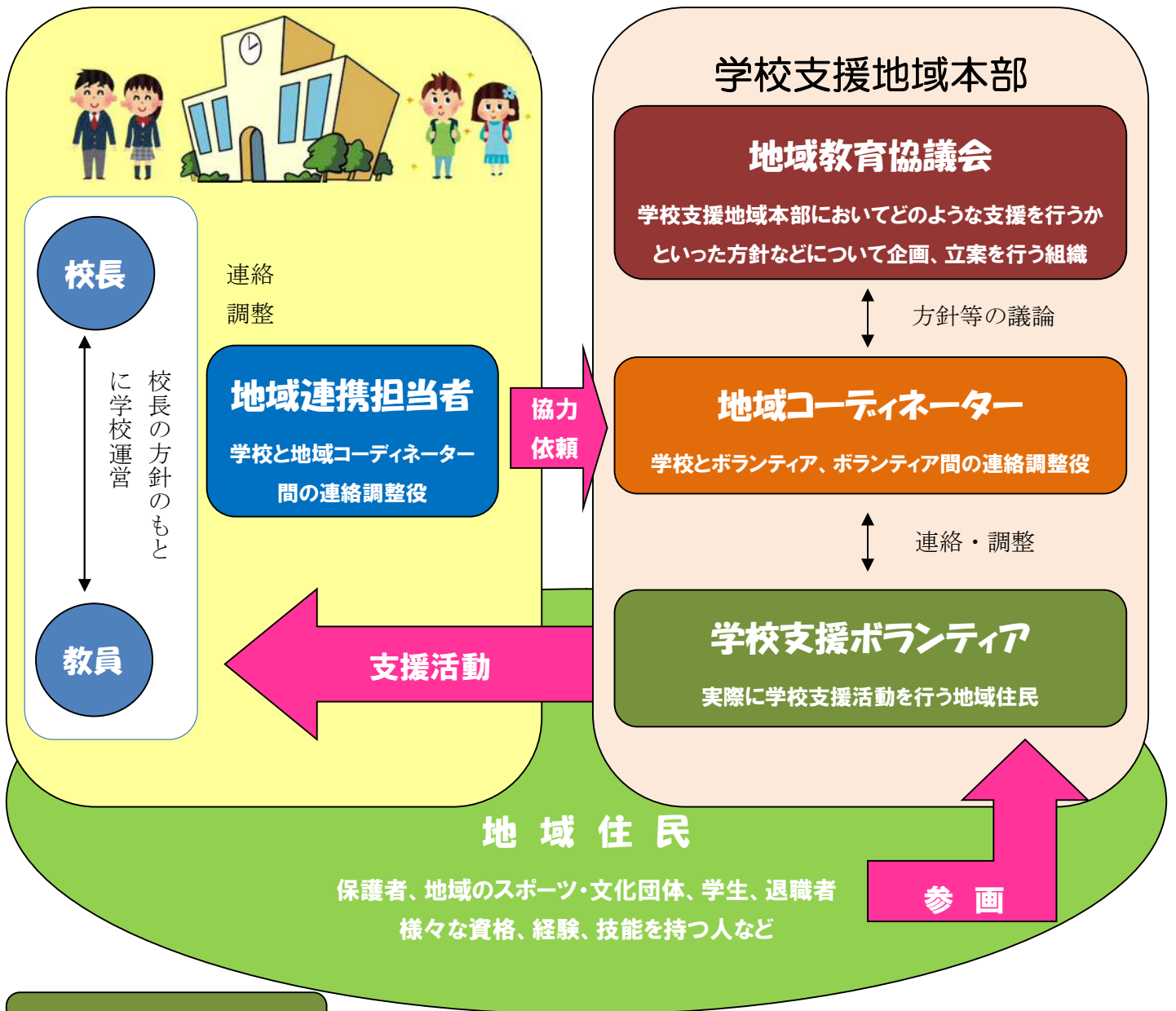
### ③地域の教育力が向上します

- ・地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域のきずなづくりにつながり、地域の教育力が向上します。これにより、地域の活性化や、学校を核としたコミュニティづくりにもつながります。

# 学校支援地域本部事業の仕組み

## ～学校支援地域本部事業の仕組み～

地域が学校を支援する、これまでの取組をさらに発展させて組織的なものとし、学校の求めと地域の力をマッチングさせて、より効果的な学校支援を行います。これにより子どもたちの豊かな学びが保障されます。



## 学校支援ボランティア

- ① **学習アシスタント型** (子どもたちの学習活動を効率よく進めるため、先生の手助けをします。)
- ② **ゲストティーチャー型** (子どもたちの学習の理解を深めるため、直接学習指導をします。)
- ③ **環境サポート型** (学校の環境整備を目的に、誰にでもできる活動を行います。)
- ④ **環境メンテナンス型** (専門性を発揮しながら施設や設備の維持・管理を行います。)



# 地域の力を活かした活動の様子

本の読み聞かせ



裁縫の指導補助



登下校の安全見守り



昔遊びの指導



和楽器の指導



放課後の学習支援



スポーツテストの補助



持久走記録会の安全管理



昔のお話を聞く



クラブ活動の指導補助



各種検診の補助



町探検の安全見守り



戦争中のお話を聞く



田植え&稲刈り体験



畑の整地作業



豆腐づくりの補助



その他、「曲がりねぎ畑の見学」「職業人のお話を聞く」「下校時のゴミ拾い」「校外学習の引率補助」「手話の指導」「日常的な学習支援」「育苗ハウスの見学」「職場体験」などが行われました。

## ★子どもの声と学校の声とボランティアの声を紹介します！

- 昔の道具の使い方や生活の様子を分かりやすく教えてもらって勉強になりました。（小学校児童）
- 戦争の悲惨さや戦争中の暮らしの大変さを学びました。本当に悲しくなりました。（中学校生徒）
- ミシンボランティアさんのおかげで子どもたちを待たすことなく、スムーズかつ安全に作業を進めることができました。また、ボランティアさんと自然な形で交流することもできました。（小学校教諭）
- 箏の先生から箏の歴史や構造、弾き方等を教えてもらい、「さくらさくら」の指導をしていただきました。生の演奏を聞き、実際に体験できたことは生徒にとって大きなプラスになりました。（中学校教諭）
- 最初は、私にできるかしら？と不安でしたが、子どもたちと一緒に過ごす時間や「ありがとう」の言葉がとてうれしく、お手伝いできる喜びが自分自身への励みになっています。（地域のボランティア）